

【要点】

- (1) 不平等条約の改正は明治政府にとって重要課題であった。明治のはじめに岩倉具視らを欧米へ派遣したり、鹿鳴館を建てて舞踏会を開いた目的は、条約改正であった。
- (2) 日清戦争の直前、陸奥宗光はイギリスと交渉して治外法権の撤廃に成功した。
- (3) 関税自主権の撤廃がようやく達成されたのは、1911年で、小村寿太郎が外務大臣のときであった。

【A問題：要点確認】

- (1) 不平等条約の改正は明治政府にとって重要課題であった。明治のはじめに()らを欧米へ派遣したり、鹿鳴館を建てて舞踏会を開いた目的は、()改正であった。
- (2) 不平等条約の改正は明治政府にとって重要課題であった。明治のはじめに岩倉具視らを欧米へ派遣したり、()館を建てて舞踏会を開いた目的は、条約改正であった。
- (3) 日清戦争の直前、()はイギリスと交渉して()の撤廃に成功した。
- (4) ()戦争の直前、陸奥宗光は()と交渉して治外法権の撤廃に成功した。
- (5) 関税自主権の撤廃がようやく達成されたのは、1911年で、()が外務大臣のときであった。
- (6) ()の撤廃がようやく達成されたのは、1911年で、小村寿太郎が外務大臣のときであった。

【B問題】

- (1) 岩倉具視らを欧米へ派遣したことの目的は何か。
- (2) 条約改正を成功させるために舞踏会を開いたが、そのためにつくった建物は何か。
- (3) 日清戦争直前の条約改正は、A条約のどの部分の改正に成功したか。 B 当時の外相は誰か。 C 相手国はどこか。
- (4) 日露戦争で国力を示した日本は、残された不平等条約の改正に成功したが、A どの部分に成功したか。 B そのときの外相は誰か。 C 相手国はどこか。

- 【解答】 (1) 不平等条約の改正 (2) 鹿鳴館 (3) A 治外法権の撤廃 B 陸奥宗光 C イギリス
(4) A 関税自主権の回復 B 小村寿太郎 C アメリカ

[印刷 / 他の PDF ファイルについて]

このファイルは、FdText 社会(6,200 円)を PDF 形式に変換したサンプルで印刷はできないようになっています。製品版の FdText 社会は Word(または一太郎)の文書ファイルで、印刷・編集を自由に行うことができます。さらに、製品版には、この問題解答一体形式のほかに、問題解答分離形式を収録していますので、購入後、ただちに印刷して使うことができます。

FdText 社会の全 PDF ファイル、他の科目(数学・英語・理科・国語)の各 PDF ファイル、および製品版の購入方法は、<http://www.fdtype.com/txt/index.html> に掲載しております。

下図のような、[FdData 無料閲覧ソフト(RunFdData)]を、お使いになっている Windows にインストールすれば、FdData 中間期末・FdData 入試の全 PDF ファイルを閲覧することができます。この PDF ファイルは、印刷・編集はできませんが、試験前に、画面を見ながら目で問題を解いていただいても一定の学習効果が期待できます。

[FdData 無料閲覧ソフト]ダウンロードのページ：<http://www.fdtype.com/lnk/dwn2.html>

